



経済成長すれども 富む者は世界と同じ 叩きのめされる5割の農民 一体この男は

インド・ビジネス・センター代表 島田 卓

空虚なるマニフェスト 疲弊する人口5割の農業従事者

2017年にノーベル文学賞に輝いた日本生まれの英国人作家カズオ・イシグロは、新作「クララとお日さま (Klara and the Sun)」に関するインタビューで、「不平等がいかに人間に犠牲を強いているか」と語った。その言葉を借りれば、今のインドはどうか。

2014年の総選挙で大方の予想を覆しインド人民党 (BJP) が過半数を獲得し圧勝、モディ政権が発足した。マニフェストにはこう書かれていた。「エク・バラット (1つのインド)、サブカ・サー (みんなと共に)、サブカ・ビッカス (みんなの成長)」。国民皆が希求する言葉が列挙されていた。しかし、現在のインドでは不平等が拡大している。

アジア人初のノーベル経済学賞を受賞したインド人アマルティア・センはジャン・ドレーズとの共著「開発なき成長の限界—現代インドの貧困・格差・社会的分断 (明石書店)」で「外部から見ればインドは目覚ましい経済成長を遂げているように見られようが、その成長によって生み出された富が、開発、即ち底辺の人々の生活の底上げには貢献していない」と喝破した。

インドの著名な経済学者インディラ・ヒルウエイはモディが首相に就任した際「モディが州首相だったグジャラート州モデルは資本集約型で、産業人への支援を主たるものとし、貧困層の救済、人間開発や飢餓の撲滅などは取り残された」と警告した。

Oxfam Internationalによれば、インドの富裕層1%が保有する富は、インドの下位人口70%が保有する富の4倍以上。インドの億万長者63人の総資産額はインドの国家予算 (約40兆円) を上回る。因みにモディが国内移動に使った小型ジェット機は、新興財閥アダニ・グループが所有するもので、ゴータム・アダニ会長の個人資産はブルームバーグによると、1月時点で約3兆7000億円と、モディが首相に就任した時から4.4倍に増えている。

一方で、世界不平等レポートでは、インドの飢餓人口は約2億人、世界の栄養不足人口の4分の1がインドに集中する。また、同レポートでは、インド全体で食料の生産自体が不足しているわけではなく、流通インフラの未整備、不十分な貯蔵・保存施設や極端に低い収穫効率などが飢餓を生む主たる要因と指摘する。農産物の自由販売を導入するとした農業新法に対する農民のストは、4カ月経った今も続いている。内容がインチキだからだ。

インドの農民人口は全体の約5割を占めるが、GDP寄与率はたった15%程度。米国の農業人口は1.5%程度だが、国内需要を賄うと共に、輸出にも貢献している。インドの農業がいかに労働集約的で、近代化が遅れているかが分かる。

一時モディの首席経済顧問を務めたが、必ずしもモディに従順とは言えなかったアービンド・スブラマニアンは辞任後こう言い切った。「選挙でモディを選んだ時が、民衆と国との関係の転換点であった。今は盲目的献身が求められ、批判的検証は葬り去られた」。新型コロナによる緊急ロックダウンで、モディは国民に対し、ろうそくに灯をともし、テラスに出て鍋を打ち鳴らそうと訴え、国民はその通り従った。

政治学者で歯に衣を着せぬ論評をするプラタブ・バヌー・メータは「我々は (インディラ・ガンディーが非常事態宣言を出し、政府による統制が強まった) 60~70年代と同様の時代に戻った」と述べている。

そして、3月3日に発表された米国のNPO フリーダム・ハウスのレポート「追い詰められる民主主義」では「インドはモディの下で、“完全に自由な社会” から“部分的に自由な社会” に変貌してしまった」と報告している。

中国包囲網ばかりが強調されてはいまいか 僕たちは一体インドに何ができるのだろう

確かに、1991年の経済自由化前までインドはヒンドゥー経済成長率と言われ、3.5%程度の低いGDP成長率に甘んじていた。その後8~9%の成長も記録、対外的には中国同様、巨大経済大国になり得るとの印象を与えた。国営高速道路の延長距離も4倍ほどになり、1990年には6万5000メガワット程度だった発電能力も、今やその約6倍 (約38万メガワット) にまで拡大している。また、銀行口座を持たない農民などに銀行口座を開かせ、

そこに直接補助金などを振り込む仕組みも作った。

跋扈する中間搾取業者の排除を図るという触れ込みだが、そういった輩は手数料と称し、補助金の半分以上を詐取した。また、今回の新型コロナワクチン接種にしても、納税者番号を使い、非常に効率的に運営されているが、裏返せば個人情報 は政府に確実に握られているということだ。

インド社会の変革に映るものも、よくよく調べてみると、弱者救済には繋がっていない。電力供給量についても、IEA (国際エネルギー機関) の統計では、インドの電力損失率は2割近くに上る (世界平均8%前後)。劣悪な電力供給網による漏電や盗電、不正電力使用などが多く、本当に困っている人たちに電気は届いていない。メーターを改ざんし、隣家の電気代に付け替える輩もいる。農民に補助金を与えているとは言うが、零細農家の抜本的救済とは無縁の場当たり的な政策ばかり。

一方で非課税であることをいいことに、巨大な土地を保有する豪農は富むばかり。1日にコップ2~3杯の水しか手に入らない人たちもいるのに。そんな状況を知ってか知らずかモディは最近、地盤であるグジャラート州最大の商都アーメダバード近郊に11万人を収容する世界最大のクリケット競技場を建設し、自らの名前を冠した。生柴にふんだんの水やりをしている。存命中の首相が未だかつて行ったことのない所業だ。

インド国民は虚飾のリーダーに抑圧され続けている。世界中の誰もが期待したのがモディだったが、この改善されない貧富の格差は何なのだろう。宗教や出自から底辺で喘ぐインドの人達のために、日本は何ができるのか。ただただ対中国包囲網のために同盟を強めるだけなのか。

次号から友人にこの連載を託すことになった。長年、ありがとうございます。(敬称略) **■**